



トイレなきマンション

福島第一原発をあらためて考えよう

『1兆円の高さは・・・信じがたいが・・・』

1万円札100枚では100万円。その厚さを1センチメートルと仮定する。そうすると1000万円では10センチ、1億円では100センチとなる。

1億円の1万円札を縦に積むと1メートルの高さだ。一流スターや一流スポーツ選手は何億もの収入を得ている。とするならその高さは本人の身長を超えることになるだろう。

さらに計算を続けてみる。10億で10メートル。100億で100メートル、1000億で1000メートルだ。なんと1キロメートルである。634メートルの東京スカイツリーよりも高くなる。欲張って1兆円であれば10,000メートルだ。世界一の最高峰であるエベレストの8,848メートルを超える。

NHKは、シリーズの企画で「ゼロからわかる・福島島のいま」を取り上げている。そして3月6日のテーマは「復興予算」であった。

震災と原発事故によって、甚大な被害を受けた被災地の復興のために、政府はこれまでに巨額の予算を確保した。復興庁によると昨年

度までの11年間で使われた国の復興の予算は、39兆4000億円にのぼると報じている。その内訳は3分の1にあたる13.4兆円が、住宅や防潮堤、道路の整備などへの費用であり、さらに被災自治体への交付金が6兆円であり、これらは津波被害への復興費であり、主に福島、宮城、岩手3県に対するものである。しかし原発事故に伴う除染や風評被害対策などの7.5兆円は前記の復興費とは性格を異にする。

一方、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う廃炉や賠償などの費用は、「復興予算」とは別枠として、国の有識者会議が2016年の時点で総額21兆5000億円が必要だとの見通しを示している。

(2021年2月25日・

クローズアップ現代から)

原発事故に伴う除染や風評被害対策、そして廃炉や賠償などに伴う1万円札の高さはどれだけになるだろう。ぜひ計算をしてみしてほしい。

そこで「福島第一原発の廃炉の今」を考える。

東京電力福島第一原発は、津波によって原子炉を冷やすための電源をすべて失い、1号機

溶け落ちるメルトダウンが発生した。世界最悪レベルの事故であり、廃炉は前例のない取り組みである。

国が定めたロードマップは30年から40かかると思込まれているが、溶け落ちた「燃料デブリ」の取り出す作業が計画通りに進められるかは不透明となつている。ましてや取り出せたとしても「安全管理10万年」の高レベル放射性廃棄物である。どこに保管をするのだろうか。

政府が見込んでいる最終処分場は、地中に整備しその広さは、約6〜10平方キロ(東京ドーム128〜214個分に相当)である。そして1000年以上は金属製の容器に格納する。その総事業費を試算したところ、3.9兆円に上るといふ。

そしてたまり続ける汚染水は原発構内で1000基余りのタンクで保管されているが限界に近づいている。また県内各地から集められ原発地区に保管をされている汚染土の県外持ち出しも見通せていない。にもかかわらず、政府や東電、そして電力業界は「燃やしたら消せない『火』をまたしても燃やそうとしている」。

世界の最高峰の「エベレスト」の何十倍もの高さまで積み上げられるだろう福島原発の被害をどう考えるのか。

『1兆円の高さは・・・信じがたいが・・・』のテーマから、今の原発の是非を考えてみたいと思う。



# 【「つひつと」 気づいたこと・感じたこと】

## STOP ぜ 戦争

### 「戦争する国は」は「ゴメンダ!!」

国会休会中の昨年12月16日、岸田政権は突如として国家安全保障戦略などの安保関連3文書の政策を大転換する閣議決定を行った。

「敵基地攻撃能力の明文化」「防衛予算の大幅増(GDP2%、5年間で43兆円)」「米国との軍事一体化」など、歴史的な大転換だが、岸田政権は国会での議論も国民への説明もないまま閣議決定をしたのである。

我が国の安全保障については、無謀だった太平洋戦争の反省のうえに立って日本国憲法下で、議論の結果たどり着いた政策を大きく転換させようというのであるから、善くも悪くも国会審議と国民への説明が必須であることは論を待たない。

約1年半前の自民党総裁選挙に際して、岸田氏は「人の話を聞く」と公言をしていたにもかかわらず、国会にも諮らず、国民にも説明をせず、御用学者の意見を聞いただけで強引に閣議決定をしてしまったことに、多くの国民から不満と不信の声があがった。

2015年に安倍政権は憲法違反の疑いの強い集団的自衛権の行使を可能とする安保法制(戦争法)を、議場が混乱するなかで強行採決をした。

戦後70年にわたって「戦争をしない国」として世界の国々から尊敬とともに、認められてきた我が国が「戦争をできる国」へと変貌した始まりであった。その後政権は昔から岸田へと引き継がれたが、安倍政権で加速した右傾化路線は止まることなく安保関連3文書の大転換によって「戦争のできる国」から「戦争をする国」に変えようとしているのである。

安保関連3文書の閣議決定で味をしめたのか、2月10日にも「GX(ぐりーん・トランスフォーメーション)基本法」の政策大転換の閣議決定を行った。これも国会議論、国民の説明なしであった。

12年前の東電福島第一原発事故に対する真摯な反省から決定をした原発政策を全て棚上げにして「原発の最大活用」「再稼働推進」「次世代革新炉の開発・建設」「原発運転期間の延長」など、これ以上ないような原発推進回帰を決めた。福島第一原発事故が何一つ解決をしていないのに無制限に等しい利活用を拡大しようとしている。危険極まりない非常識に呆れるばかりである。

更に、ロシアのウクライナ侵攻で、世界中が心配をした戦争時における原発のリスクを少しも考慮に入れない閣議決定に閣僚の皆さんの資質を疑わざるを得なかった。原発は、戦争時には核爆弾以上の恐ろしい武器になってしまうのである。

「戦争をする国」と「原発推進回帰」の方針は絶対に取り入れてはならない政策である。

ロシアのウクライナ侵攻以降、世界中の世論は

残念ながら軍備増強や核兵器保持に傾き始めたと言われている。その原因は強力なプロパガンダが影響しているものと思われる。

我が国においても、軍備増強に賛成する声が多くなりつつあるという話が聞かれる。「戦争はすぐそこまで来ても気が付かない。気が付いた時はもう遅い」とよく言われる。考えてみると「戦争できる国」から「戦争をする国」に政策転換されようとしている今が、見極めるべき時なのかもしれない。自・公政権のプロパガンダに流されることなく、冷静に考え、行動していきましょう。

今年は統一地方選挙の年。選挙を取り組みながら多くの人たちが語り合うことが大切である。

- ◎ 平和憲法を守ろう
- ◎ 武力では平和は守れない
- ◎ 外交による平和の構築を
- ◎ ウクライナ侵攻即時停止

福島第一原発水素爆発



川俣町の避難所から「さいたまスーパーアリーナ」に到着した双葉町の住民たち=2011年3月19日午後3時14分  
苦難の始まりとなる。

(福島県 K)

原発地域の町村の避難解除が進められている。しかしその中であつて、富岡町から避難をきて以来、郡山の地を「終の棲家(ついのすみか)」と定めたお方がおられます。その方のお名前は「渡辺時猪さん」(93歳)です。今般ご寄稿下さいました。「ご覧ください」

## 富岡町の未来への想いをこめて!!

「タイムフライズ」福島第一原発事故より丸12年、富岡町の避難解除(帰還困難区域を除く)から6年を経た。厳しい避難の辛さを思うたび、事故が昨日の出来事のようによみがえる。家屋はほとんど解体され、いまや敷地には背丈ほどの雑草が生い茂り、荒野寂然たる姿となつてしまった。

「昔の栄いまいず」

放射能の恐ろしさを実感させられる。

原発事故は自然災害ではなく人工災害であると断言できる。東電が津波による危険性を認識し、早めの対策を講じていれば……と、本当に悔しい。

「覆水盆に戻らず」

避難地で故郷の親戚、知人の訃報に接するたびに胸が締め付けられる思いである。さぞ故郷で生涯を閉じたかつたであろうと。明日は我が身の定めか、切ない。

富岡町の人口は11700人(事故当時は15800人)であった。

しかし町内居住者は新規居住者1200人、帰

還者900人の計2100人である。

避難解除後6年を経過しても、帰還者は人口の1割にも満たない。避難地を第二の故郷として、そこに生活の基盤を求めた人が多い。

「夜ノ森地区」の困難区域は、4月1日に解除されるが、帰還住民の数は極少と予想される。

今、原発事故の被災地を先端技術が集まる拠点へと、国主導の「イノベーション・コスト構想」が本格化されていると報道されている。富岡町は「桜の町・夜ノ森地区」を再生する絶好の機会である。その一策として国が非帰還住民の土地を買い取り、これらを産業従事者の住宅地とすることはどうだろうか。

国と町が富岡町を文化の町と位置づけ、その構想の具体化と、双葉郡の発展とつなげてはどうだろうか。

## 「コロナ禍は「思いも、習慣も壊し続けた」

福島民報の訃報欄に同級生の名前を見ました。卒業をして60年余が立ち、賀状のやり取りになつてきた東京住まいのY君に訃報の連絡のため電話をしたが留守。その翌日Y君の奥さんから電話がきました。そして述べられたことは昨年12月に亡くなったとのこと。入院をしていましたがコロナ禍にあつて面会もできず、その臨終にも立ち会うことができなかつたという報告でした。今でも夫の死を受け入れられないという言葉を聞くことになり、それはコロナ禍にあつての耐え難い報告でした。

また今般90歳になる私の知人の奥さんから電話を頂きました。その知人の施設介護生活は長く、当初は入所を嫌がっていました。ニューズを持参してはお部屋に寄せて頂き、高齢の「老々世帯」であり、奥さんのことを考えれば入所を受容すべきではないかということを通じてきた経緯がありました。

そしてその2年後、奥さんも施設に移りこの間数回となく携帯電話でのやり取りがありました。そして今般ご主人が亡くなつたとの報告があり、その時「夫の顔も見ることができず、手を握ることができなかつた。家族葬であつたがその席につくことができなかった」ということの報告を受けました。コロナ禍は、長年連れ添つた夫婦間にも「無残な結果を残した」ということでしょう。

施設側の方針もあり、外出が叶わなかつたのであろうと推察をしました。確かに感染者の減少は報じられていても、高齢者の死亡は続き、加えて「高齢者施設」における「クラスターの発生」の報道の多いのも事実です。

福島市II高齢者施設6人▽郡山市II介護施設8人▽いわき市II高齢者施設7人・高齢者施設5人。  
(2月21日・福島民友より)

長年連れ添つてきた肉親を「送る」ことのできなかつた寂しさ、切さは計り知れないものであつたろうと思ひます。

新型コロナウイルス感染症は、私たちの「思い」や「大事な習慣」を壊し続けたということを感じた二つの報告でした。  
(降矢記)



■2020年(令和)2年7月1日より、全国でプラスチック製の買物袋が有料化になりました。そして現在マイバッグをもつての買物物が多くなっています。そこで考えました。マイバックを持参しますが、その中の商品のほとんどがプラスチック包装品であることです。昭和の時代は、肉は「肉屋さん」、野菜は「八百屋さん」、酒は「酒屋さん」。そして買物には籠を持っていきましました。包装も新聞紙などで包み、あるいは包装せずに籠の中に。そして豆腐売りの声に鍋をもって道に出たものでした。

しかし今はスーパーなど、総合店となり一か所で購入物が済みます。そしてほとんどがプラスチック包装になっていきます。そして今年のお彼岸です。寒冷地の東北などでは「角材をカンナで削る『削り花』の風習」があり慣れ親しんできました。ところが今年「はなんと」ビニール製です。どの程度の数になるのかは不明ですが、すべて「燃えるゴミ」となります。改めて矛盾の多い現代を痛感しました。

■家内が白内障の手術をする前の「コロナPCR検査」のため福島医大に行く。その手術も少々厄介な状況らしく、レーザー処置となるらしい。「予備検診」のため2日掛かり。待合室は満員である。圧倒的な高齢者の世の中を見た思いでした。小生も現在は何とか持ちこたえておりますが、いずれはと

考えると切ないものを感じた。自分でできる事は今しっかりとやろうと改めて感じた通院であった。

■2019年の参議院選で、野党統一候補として自民現職に勝利した「安達きよし」(53歳)が大分県知事選に立候補を表明し、参院補選も行なわれるようになりました。知事選は広瀬知事が引退を表明し、現職の大分市長が立候補を表明しました。野党も補選候補のめども立たず、知事選の対応も混乱を極めていきます。それでも私は、「安達きよし」さんの市内ポスター張りを買って出ました。「人が良すぎる」と同僚から笑われていますが、「何もしなくても年は取るんだから。だとすれば何かをして年を取りたい」と思っています。果たしてどうなりますか？

■3月号の食料自給率のことは全く同感です。日本の未来のためには、農林水産の一次産業の再興に取り組むことが最も重要だと思っています。すべきことは軍事費の大幅な増額で軍事強国を目指すことではなく、豊かな一次産業に支えられた、地に足のついた国を作ることだと思えます。政府にはバブル時代の輸出全盛の頃の夢が捨て切れぬのか、真剣に一次産業を強靱にするという考えはなさそうです。GDPが増えても豊かさが感じられなければ意味がありません。最近も酪農家が廃業を迫られているとテレビニュースで取り上げられておりやるせない気もちになりました。寒さが和らいだと思つたら、花粉で辛い日々になってしまいました。花粉症歴はもう40年くらいになるかもしれませぬ。頭

痛、喉の痛み、目の痒み、鼻水：：と、毎日ひどい風邪にかかっているような状態です。早く桜が咲いて花粉の季節が終わることを待ち望む日々です。

■「止まらない商品の値上ラッシュ」と言いたいほどあらゆる商品が値上がりをしている。しかも、ひと月前に買った同じ品物が、なんとひと月後には価格が上がっているというのが一つや二つではない。それだけではない量も少なくなっている。空気を入れて袋を膨らませる商品の代表格がウインナーソーセージである。しかし今や、菓子袋など、袋詰めの商品の空気いづばいが目に付く。物価の値上がりは、新型コロナやロシアのウクライナ侵攻といった影響が原因と言われてきたが、この機を逃さず値上げに走る「便乗値上げ」はないのか。政府(消費者庁)の監視を望みたい。

■「あれ? いま何しようとしていたんだっけ」「ほら、あの人、名前なんていうんだっけ」「昨日の晩ごはんを食べたんだっけ」などなど、若い頃は気にならなかったのにいつの頃からかもの忘れが激しくなってきた。「ちよつと忘れた」というレベルではない。「しよつちゆう忘れてしまふ」「名前が出てこない」のがもう当たり前になってきた。しかし、何かの時にあとから思い出したりもする。そこで私は考えた。いつも身近にメモ帳を置いて思い出したことを書き留める。そのメモの習慣が、結構効力のあることを経験している。お互いさま高齢者同士。参考になれば。

